ヒーロー^{3}

瀧　源作　作

「ヒーローさんじょう」

ＣＡＳＴ

ヒーロー
目黒（検事）
穐山（検事）
橋本（被害者遺族）
鳴海（弁護士）
岩元　愛
裁判長
裁判官１
裁判官２
怪獣Ａ
　　Ｂ
　　Ｃ
虫鹿（政府の役人）
後藤（政府の役人）
西川（政府の役人）
ディレクタ
リポーター
カメラマン
傍聴人１
　　２
　　３
　　４
　　５
　　６
レポーター１（裁判所前の人）
　　２（裁判所前の人）
コメンテーター（裁判所前の人）
宗教家（裁判所前の人）
学生政治団体の人（裁判所前の人）
動物愛護団体の人（裁判所前の人）
番組ＭＣ１（裁判所前の人）
　　２（裁判所前の人）

ＯＰ　東京地方裁判所前

緞帳前

レポーター１　こちら東京地方裁判所前です。先ほど傍聴の抽選が終わりましたが、法廷内に入ることのできなかった人々もいまだ帰らず、こちらは熱気に包まれています。

レポーター２　今まで、ヒーローに対して何の措置もとってこなかった政府がついに行動を起こしたことで、国内外からの関心は高まるばかりです。

コメンテーター　しかしですね！　そもそも、ヒーローとは言葉が通じませんし、判決にヒーローが従うとは思えません。ヒーローを裁判にかけるってこと自体がナンセンスなんです、ナンセンス。こんなことをやってたら、日本は笑いものですよ。

宗教家　三年前に突如現れ、暴れ回り、大きな被害をもらたした未知の生物を、私たちは「怪獣」と呼んで恐れていました。自衛隊の力を持ってしても、追い払うことしかできなかった怪獣を、ヒーローは倒し、多くの人々の命を救ってくれました。

学生政治団体　ヒーロー裁判、反対！　反対！　みなさん、この裁判に抗議しましょう！　　3

私たちはヒーローの手によって平和な世界を手に入れつつあるんです！

動物愛護団体　怪獣は太古の生物です。人間が今まで自然に対して行ってきた事を考えれば、これくらいの被害は、受け入れるべきです！　絶滅危惧種を守って地球に優しい未来を作りましょう！

レポーター１　しかし、そのヒーローの活躍の影で、戦闘の被害は我が国に大きな爪跡を残しています。

レポーター２　十兆円とも言われる怪獣関連の被害総額の中には、ヒーローとの戦闘が原因のものも含まれています。

ＭＣ１　しかし彼が、数え切れないほどの命を救ってきたのもまた事実。さあ、「ヒーロー」が訴えられた異例の裁判、はたしてどうなるのでしょうか？　ヒーローは、裁判所に現れるのでしょうか！　カメラの前に！　姿を現してくれるのでしょうか！　まもなく！　開廷される模様です。

ＭＣ２　世界が注目する今回の裁判に、私たちTAKIテレビは特例として、法廷内にカメラを入れることを許されました！　では、第一法廷の菱田さ～ん。

緞帳が開く。

一場

東京地方裁判所第一法廷

リポー　はい、こちら東京地方裁判所、第一法廷です。ご覧いただけますでしょうか？　今世紀最も注目を集めている裁判をその目で見ようと、傍聴席は満席の状態です。それでは、傍聴席の皆さんの声を伺ってみましょう。

虫鹿　ちょっと、君たち。

ディレ　はい？　あ、カメラとめて。

カメラ　はぁ？　なんですあなたは？

ディレ　政府のお偉いさんだよ。今回の撮影許可、ありがとうございます。

虫鹿　静かにしてくれないか。撮影は許可したけれど、そんな風に大騒ぎにされては困るんだ。

カメラ　それに、ちょっとあおりすぎじゃないか？

ディレ　そうですよ、あんまり期待をあおるような事言って、やっぱりヒーロー来ませんでしたー、じゃあ視聴者もがっかりしますよー？

カメラ　いいんだよ！　テレビってものはですね、視聴率が正義なんです！

ディレ　チャンネルを合わせてくれたらそれでオッケー！　がっかりしたって感動したって数字にはなんの変わりもないんですから！

後藤　あの、やっぱり・・彼は、来ないんですか。

西川　ええ。そうですね。本人は裁判に出席しない、欠席裁判になるでしょうね。

カメラ　これは珍しいケースですが、法律では認められています。

ディレ　そうなんですか！？　残念です。私、実はファンなので。この目で見てみたかったなぁ～…なんて。

虫鹿　こら！（カメラに）お前馬鹿なことをいうんじゃないよ。

カメラ　彼は、今からここで、犯罪者として裁かれる被告人、なんだから。

ディレ　そもそもヒーローはあんな大きさだ。こんな所に本人が来たりしたら、裁判所が壊れてしまうだろう？

リポー　そこは「ジュア」とか言って、小さくなってもらって・・・

ディレ　そんな都合良くいくわけないだろ？　ホントすみません。こいつバカで。

カメラ　後藤さん、政府関係者の言葉って感じで、コメントいただけますか？

虫鹿　お、いいね～。お願いしますよ～。虫鹿さんハンサムだから、数字とれると思うんですよね～。

後藤　はい、かっこいいです！

　　いや、私は・・・。

　　じゃあ僕が。あ、カメラこっちですか。ごっほん。ええ確かに、ヒーローを裁くということは、史上最も異例なものになるでしょう。しかし、ヒーローだからと言って、彼だけを特別扱いするわけにはいきません。現に、彼は何人もの人を殺害しており・・・。

　　後藤がコメントしているところに、岩元、傍聴人１・２が割り込む。

岩元　勝手なこと言わないでください！　正義の味方を裁判にかけるなんて、絶対に間違っています。

リポー　邪魔しないでください！

傍聴２　彼を馬鹿にするなんて最低！　ヒーローは私たちを守るために戦っているんですよ？
後藤　ふぅん。まあ、どれだけ応援したって、来ないものは来ないと思いますけどね。
傍聴１　何言ってるんですか！　ヒーローは無実を晴らすために絶対に来ます！

傍聴人３・４・５が割り込んで来る。

傍聴４　何言ってんの！　こんな裁判来るわけないじゃん！
傍聴５　あんたらが勝手に正義って言ってるだけで、本当はどうかわからないじゃない？
傍聴３　ただ単に殺戮を楽しんでるって可能性もありますしね！
リポー　えーこのようにー、世論を二分する裁判、始まる前から法廷は荒れ模様です。
　判決次第では、血の雨が降るでしょう。
ディレ　まじめにやってください。
カメラ　いやあそれにしても、こんなビッグイベントに立ち会えるなんて、一生に一度ですよ！　生まれてきて良かった！
後藤　法廷ではお静かに。あまり騒ぐとつまみだされますよ。
　では、まもなく開廷の時間です（去る）

両袖から目黒と穐山（検察官二人）と鳴海（弁護士）がそれぞれ登場。それに反応しマスコミチームは取材を開始する。

リポー　今回の裁判を担当する検察官と弁護士が今、法廷に姿を見せました！
　異例の裁判ですが、見込みはいかがですか？
目黒　ノーコメント、です。
リポー　そういわずに、一言だけ！
目黒　正義は判決が明らかにしてくれるでしょう。
リポー　おーさすが、幾多の裁判を担当して有罪を勝ち取った歴戦の検察官、目黒検事！　迫力があります！
ディレ　弁護士さんも、インタビューよろしいですか？
鳴海　（裁判資料をあわてて落としてしまう）あ、すみません。えーっと、なんでしょうか。
リポー　インタビューお願いします。
鳴海　あ、はい。新人の鳴海です。
カメラ　なんだか頼りない人ですねえ。
鳴海　本来担当するはずだった春木弁護士が、急遽盲腸で入院することになりまして。代理なんです。
　よろしくお願いします。
リポー　全国放送なのでがんばってください。
鳴海　は、はい。がんばります。

裁判長　、裁判官１・２も登場。

裁判長　静粛に！　ただいまより二〇一五年七月三一日東京地方裁判所第一法廷第三一号を開廷します。

被告人は欠席ですが、弁護士の出席を代理とします。

裁判官の開廷宣言が、ずーん、ずーん、という音でたびたびさえぎられる。

カメラ　この音、なんでしょうね？　工事？　地震？

ディレ　しっ！（ずーん、という地響きが続く）ああもう、マイクが音を拾ってるじゃないか！

リポー　近づいてきてますよね。この音。

カメラ　あの、ひょっとして、もしかして。

ディレ　言うな。

裁判長　被告。住所（ずーん）不明。生年月日、（ずーん）不明（ずーん）

被告人氏名。ヒーロー！

轟音。巨大なヒーロー登場。

全　うわあああ！

リポー　ヒーローです！　ヒーローが現れました！

身長五十メートル、体重推定二十トン！　ヒーローが現れました！　法廷は大混乱です！

裁判長　休廷！

裁判１　休廷します！　全員避難してくださいー

二場

別室

後藤　どうしましょう？

虫鹿　俺にきくなよ。

後藤　被害者、出ちゃってたら、どうしましょう？

虫鹿　う～

西川　こちらの責任になりますね。（ニコ）

虫・後　あ～～

虫鹿・後藤、しゃがみ込む。裁判官たちの声が聞こえてくる。

裁判１　どうなってるんですか、裁判長！

裁判長　いやー。僕に言われても…

裁判官たちが入ってくる。

裁判１　ちょっと話が違うじゃないですか！ヒーロー本当に来ちゃいましたよ
虫鹿　困るんだよ、勝手に裁判を中止されちゃあ
後藤　プロ意識が足りないんじゃないのかね
裁判長　あなたたちだって逃げてたでしょ
後藤　まあそれは、私は政府の人間として、裁判の結果を最後まで見届ける義務がありますから
裁判１　じゃあ、あなたたちが裁判やったらいいじゃないですか
西川　まあまあまあ、おちついて。やー、まいったなあ
裁判長　まいったなあじゃありませんよ！もう！

検察官も入ってくる。

目黒　あんなの聞いてないです！
後藤　おお、目黒検事、被害者は出ましたか？
目黒　あ、いえ、幸いなことに、死者・怪我人ともにゼロです。
西川　よかった～！
裁判２　ヒーローは今、どうしているんですか？
穐山　裁判所の正面の壁を壊して、立ち止まったあと、・・・座り込みました。
西川　裁判に来てくれたんでしょうか
虫鹿　まさか？
裁判２　でも実際、あらゆる方法で出席を呼びかけてたんですよ？
西川　そうですねぇ～。
後藤　そうだよねぇ。でも、本当に来るなんて、びっくりだ
裁判長　びっくりしてる場合ですか！　来るわけないって言ってたじゃないですか！
欠席裁判で、政府の台本通りにやるって話だったのに！
裁判１　話が違いすぎます！
穐山　あの、すみません！　そもそもなんでこんな裁判やるんですか
目黒　何も聞いてなかったわけ？　ヒーローを有罪にするの！　そのための裁判なの！
穐山　いや、それはわかってますよ。僕ヒーローのファンですから。
で、なんで有罪にしたいんですか
後藤　聞いてないじゃないですか。新しい法律を作るんですよ。
虫鹿　ヒーローと怪獣の戦いは被害が大きすぎる。コレはもう国家予算ではまかないきれない
金額だ。だからヒーローに有罪判決を出し、ヒーローの行動をコントロールする。
穐山　じゃあ、ヒーローは怪獣が来ても助けてくれないんですか？
虫鹿　そうは言ってない。
後藤　私たちとしても、信頼できる筋から情報を得て今回の裁判を計画したんですけどね。
目黒　どうゆうことですか？
西川　秘密です
後藤　国家秘密なんだよね。
虫鹿　国の行く末がかかってるんだ。君たちには予定通りに始めてもらう

裁判２　そんなあ
裁判１　予定通りに行くわけないでしょう！　そこに、いるんですよ！　ヒーローが！
虫鹿　いるからと言って、しゃべるわけじゃあないだろう
後藤　空を飛んでも、図体がでかくても、破壊光線を出しても、裁判では、発言ができなければ無力なんです。資料も証人も十分に用意してありますので、あなた方は弁護士を言い負かしさえすれば終わりです。
虫鹿　判決はもう決まっているんだから、あとは裁判の体裁さえ整えばいいんだよ
目黒　弁護士の彼は？　事情を知ってるんですか
後藤　いいえ。彼は私たちが用意しました。何も知らない、新人の男です。
虫鹿　優秀な君たちなら、問題にもならないだろう
目黒　そうはいってもやっぱりイレギュラーですし、いろんなケースが考えられると…
虫鹿　心配ならさっさと進めて、さっさと終わらせるんだ。
君らの仕事は、形式どおりに裁判を行い、予定通りの判決を出すことだ。
後藤　後のことは任せてください。
検裁　わかりました…

三場

裁判所。ファンとマスコミ、鳴海が、ヒーローを見上げている。

岩元　ヒーローさーん！　ヒーローさーん！　あなたに会えて、すっごく嬉しいで～す！
私、あなたのこと応援してます！　私の声、届いてますか～？
カメラ　わたしも！わたしもファンで～す！　ってか、でかい！　すごい！　かっこいい！

マスコミやファンはヒーローを見上げ騒いでいる。
おそるおそる鳴海がヒーローの近くにいき話しかける。

鳴海　ええと、ヒーローさん。今回の裁判で、あなたの弁護をします。鳴海と言います。
よろしくお願いします。
岩元　そんなんじゃ声届きませんよ？　あなた、頼りない感じだけど大丈夫ですか？
鳴海　あの、僕は実は弁護士になったばかりで、新人のペーペーなんです。
岩元　本当に大丈夫ですか？
鳴海　精一杯頑張ります！
岩元　あやしいなあ。でもまあ、困ったら私に頼ってください！　私、ヒーローのことならなんでも知ってますから！
鳴海　はい！
岩元　がんばりましょうね。
鳴海　がんばります。

ディレ　それにしても、傍聴席はずいぶん、人数が減ったな。
カメラ　みんな避難しちゃいましたね。
リポー　まもなくヒーローの裁判が始まろうとしています。傍聴人の大半は避難してしまいました。残っているのは主に、熱狂的なヒーローファンの方々です。
傍聴１　ヒーローに会えるなんて、すっごく幸せ！
岩元　ですよねー！　あ、あなたまだいたんですね
傍聴３　もちろんいますとも。僕は最後の瞬間までこの場に留まりますからね！
ディレ　そんなおおげさな。
カメラ　私は危なくなったら逃げますよ
傍聴２　はあ？　危なくなったりなんかしませんよ。
　ヒーローは裁判に出席するために来てくれたんですから！
傍聴３　本当に？
岩元　それ以外に何があるっていうんですか？
傍聴３　もう人間を助けには来ないって宣言しに来たのかもしれないですよ？
傍聴２　ヒーローを何だと思ってるんですか！
リポー　あ～もう！　法廷内でケンカをするのはやめてください！　ほら、落ち着いて。

　裁判官たち、戻ってくる。ヒーローを刺激しないように、気にしつつそっと槌を叩いて

裁判長　静粛に。えー、混乱がありましたが、裁判を再開します。
裁判１　おちついて、予定通りにやるだけですからね。
裁判長　わかってるって。では、被告人は証言台に立ってください。
鳴海　・・・聞こえてますかね？
裁判長　むむ。（拡声器で）あー、あー。こほん。被告！　被告人は証言台に立ってくださーーい！
目黒　あの、ひょっとして、自分の事だってわかってないんじゃないでしょうか。
　被告人という単語を知らない可能性があります。
裁判２　それもそう・・・なのか？

　ヒーロー身動きする

全　うわあああ！
鳴海　そのまま！　そのまま！　動かないでー！
裁判長　ぜえぜえ。特例として、その場からの裁判への参加を認めます。なのでその場で答えてくださーーい！
ヒーロ　イェイ！
全　答えた！？
鳴海　ほんとに裁判に出席するために来てくれたんですか？
ヒーロ　ウーイェイ！！
裁判１　・・・。どうしましょう
目黒　了解したということで、いいんじゃないですか

裁判長　そうだな。では、被告人、ヒーロー。以後あなたの発言は全て、裁判の証拠として採用されます。なので、自分の不利になることであれば黙秘して、何もしゃべらないことも認められています。いいですね？
ヒーロー　イェイ！！
裁判長　了解したものとみなしまーす！
鳴海　裁判長！　ヒーローの発言を都合よく解釈するべきではないと思います！
裁判長　キミは黙っていたまえ！
目黒　では、弁護側の意見を採用して、何と言っているか我々が理解できない単語が発された時は「黙秘」ということでいいんじゃないでしょうか
裁判長　採用します。では、検察は質疑応答に移ってください
目黒　はい。ヒーローさん。ヒーローさん！　あなた、お名前は？
ヒーロー　イェイ！！
目黒　・・・黙秘ですか？

政府関係者・裁判官たちうなずく。とまどう穐山。

目黒　黙秘で！　では、あなたはどこから来たんですか？
ヒーロー　イェイ！！
目黒　黙秘？

政府関係者・裁判官たちうなずく。とまどう穐山。

目黒　黙秘！　年齢は？
ヒーロー　イェイ！！
目黒　黙秘！
岩元　ちょっと待ってください！ヒーローはそんなことを言ってません！
裁判長　なんだね、キミは！
岩元　ヒーローは言っています！「私は正義だ。人類を守るために存在している」と！
目黒　はあ？
岩元　ヒーローはいつも私たちを守ってくれる、正義の神様なんです！
穐山　ちょっと待て、君はヒーローがなんと言っているのか、わかるんですか？
岩元　はい！　私とヒーローは、つながっています。
彼は、私が呼んだからこの裁判に来てくれたんです！
裁判２　ばかなことを言うな。出ていきたまえ！
岩元　助けて、ヒーロー！
ヒーロー　イェイ！！
全　うひょあああ！
岩元　見た？　見ました見ました？　ヒーローが私に応えてくれました！　あはははは、やった、やった！
穐山　ヒーローが、この子を守ったのか？

鳴海　あなたは、本当にヒーローと話ができるんですか
岩元　もちろん！
鳴海　もしかしたら小さくなってもらうこととかも、できるんですか
岩元　それは、どうなんだろう？
鳴海　お願いします！　頼んでみてください！　じゃないと裁判が始められないんです！
岩元　わかりました。お願いしてみます。ヒーロー！　人間の大きさになってくださーいー！
ヒーロ　イェイ！！

人間サイズになったヒーローが、被告席に出現する。

全　おおおおお
岩元　ありがとうヒーロー！
リポー　ご覧ください！ヒーローが！　小さくなりました！　人間サイズになって、今、私たちの目の前、被告席に立っています！
ヒーロ　イェイ
鳴海　う、ヒーローさん。小さくなれたんですね。あ、いや、よろしくお願いします！
（握手を無視される）…あ、僕の言葉は通じないんですね。
裁判長　裁判長！　彼女を通訳に採用したいと思います！
裁判長　えー…。ちょっと審議します。…ちょっと待ってください。

裁判官たち、政府の役人たち、検察官達集まり、密談する。

裁判２　やばいですよ。絶対シナリオ通りにいきませんよ！。
穐山　僕はやりたいです。通訳を通してでもヒーローと会話ができるチャンスなんてないです！
目黒　馬鹿なこと言うんじゃないの！　もう無理ですよ、絶対におかしくなりますよ
後藤　大丈夫です。あの通訳はでたらめを言っているだけです。
裁判１　そうなんですか？
後藤　彼女の名前はイワモト　アイ。
虫鹿　ヒーローの、熱狂的なファンとして、警察からマークされている人物です。
西川　これまでにもヒーローに近づこうとして、何回も取り押さえられているんです。
目黒　彼女が本当に話ができる可能性はないんですか。
虫鹿　ない。
西川　たぶん
検・裁　たぶん!?
後藤　逆にチャンスですよ。あの通訳がとんちんかんなことを言ったら、あなたたちがその足元をすくって追い詰めてやればいいんです。そう難しいことじゃでしょう？
目黒　そうはいっても、さっきと逆に大きくなって私たちを踏み潰したりは
虫鹿　しない。さっきのは偶然だ。
西川　たぶん。

検・裁　たぶん!?
裁判長　わかりました。やればいいんでしょ、やれば。
裁判1　でもこれ以上へんなことが起きたら私は下りますからね。
虫鹿　君には期待してるんだ
後藤　よろしくおねがいしますね。

それぞれ所定の席に戻る。

後藤　（マスコミ関係者に向かって）　あーちょっと、すみません。戻って。
裁判長　ええ、審議の結果がでました。申請を許可します。あなたをこの裁判の、臨時の通訳として参加を認めます。
岩元　ありがとうございます！
鳴海　ではさっそく、通訳をお願いします。ヒーローさん、あなたは・・・
ヒーロー　イェイ！
岩元　私は正義の味方だ。
ヒーロー　イェイ！
岩元　この星を守るため、遠い星からやってきた。
ヒーロー　イェイッ
岩元　この人は正しい。この人の言うことはすべて本当である！
稲山　今本当にそう言ったんですか？
岩元　本当に言いました。信じてくれないんですか？　ね、ヒーロー！
ヒーロー　イェイ！
稲山　今はなんて？
岩元　ぶっとばすよ？
稲山　・・・信じます！
裁判長　とにかく、やっと裁判になってきましたね。検察側から起訴内容を説明してください。
目黒　はい。皆さんご存知の通り、被告は三年前から活動を開始し、周辺に多大な被害を出してきました。幸い、怪獣の出現場所、戦闘は山間部などが中心であり、これまで人為的被害は発生してこなかったため、世間では彼をヒーローとして持ち上げる風潮がありましたが、しかし、ついに先日、市街地で怪獣との戦闘が発生しました。そのときの映像があるので、そちらをご覧ください。

再現映像。（マスコミ関係者と、ビルと人形を持った傍聴人たちで行う）

ディレ　うぉぉぉぉ！（怪獣のマネ）
リポー　町中に突如現れた怪獣、暴れまわっています。
人々　きゃーー！
リポー　おおっと！　ここでヒーローの登場です！
人々　きゃーー！

ヒーロー、威嚇する

リポー　おっと！　威嚇しました！
怪獣はビビってビルの陰に隠れます！　出るかー!?

ヒーロー、ビームを発射。ビームがビルに当たり、ビルが消滅する。

リポー　きまったぁ！　ヒーロー渾身の一撃！　今回もヒーローの勝利です！
いや～、さすが、やってくれました。見事です。

目黒　ご覧いただけましたでしょうか。
岩元　もちろん！　格好良かったです！
目黒　あなたの感想は聞いてません！
岩元　なによ、今の映像が、ヒーローが正しかったことの証明でしょう！
怪獣が町に迫ってきて、ヒーローが倒してくれた。それでいいじゃないですか！
目黒　皆さん、そう思いますよねー！（盛り上がる傍聴席のファンたち）
お静かに！・・・あなたはこの裁判のこと、なにも知らずに来たんですか？
皆さんはこの巨大なヒーローと、その華々しい戦いに目を奪われているかもしれません。
怪獣を撃退してくれる彼を、神として崇める人がいるのも知っています。
ですが！　その足元で！　ヒーローの放った必殺光線の陰で！　巻き込まれて踏みつぶされた多くの建物があることを皆さんはご存知でしょうか？
…そして、今回の怪獣との闘いで初めて、尊い人の命が、失われてしまったのです！
これを聞いてもなお、あなたは、彼をヒーローと呼べますか？
先程の映像で、怪獣が盾にした建物にも、大勢の逃げ遅れた一般市民がいました。
ヒーローは怪獣を倒すためという大義名分のもとに、周辺住民への配慮を怠り、ビームで罪の無い一般市民五十三人をを巻き込んで・・・殺害したのです。
よってここに、器物損壊、傷害致死そして殺人の罪で起訴します。
岩元　そんな！ヒーローだって必死に戦ってるんですよ。たぶんその、人間は小さくて目に入らなかったとか。怪獣と戦うのに忙しくてそれどころじゃなくってとか、ヒーローの大きさや事情も、考えるべきだと思います！
鳴海　そうです！　ほら、僕だって今、検事さんと話している間に目の前に猫が歩いてても気付かずにそのまま踏んづけちゃうと思いますし。ねこふんじゃった、ねこふんじゃった、みたいな。
（周囲の冷たい視線に気づいて）すいません。
目黒　異議アリ。弁護人の表現は抽象的で状況をねじまげています。
穐山　その通りです！　ヒーローの大きさを人間と比較した場合、ヒーローから見た人間は猫ではなくもっと小さいネズミくらいだと思いますよ。
鳴海　確かに！

二人、固い握手。

目黒　（穐山を引っ張って）あんたはこっち！
では弁護人は、あれは事故だった、と主張するのですね？　人間がそこにいるのに気付かず、ビームを撃ってしまった、と。
鳴海　そ、そうです！　手がすべることもあります。ほら言うでしょう、河童の川流れ、チーターが落っこチーター、ヒーローの光線すべり。
岩元　とにかく、殺人の罪で訴えることには同意できません。
鳴海　そう！　過失による事故として扱うべきです。
穐山　確かに。さっき映像からでは、その可能性も捨て切れませんね。（足を踏まれる）いったぁ！
目黒　黙ってろって言ってるでしょう・・・！
では、事件の状況を明確にする必要がありますね？　橋本さん！
橋本　はい。
目黒　被告、彼女に見覚えありますか
ヒーロー　イェイ・・・
岩元　ありません。・・ないそうです。
目黒　そうですか。裁判長。現場に居合わせた証人から、発言してもらいます。よろしいですか
裁判長　許可します。
目黒　ありがとうございます。橋本さん、大丈夫ですか？　話せますか
橋本　はい。
目黒　被告人は被告人席に戻ってください。橋本さん、大丈夫ですか？　話せますか
橋本　はい。
目黒　では、あの台に立って証言してください。彼女は先ほどの映像で怪獣が盾にしたデパートにいた女性です。橋本さん、あなたが、あのビルにいたことに間違いありませんね。
橋本　はい。
目黒　つらいと思いますが、その時の様子を詳しく教えてください。
橋本　あの日、私は、ビルの中のレストランで父と食事していました。
目黒　そこに、怪獣と被告が現れたのですね
橋本　はい。怪獣と・・・ヒーロー・・・が近づいてくるのが、はっきり見えました
目黒　被告はあなたたちに気付いていましたか？
橋本　気付いていたはずです！　ビルの中はまだ大勢の人が残っていました。
目黒　その時のビルの中の様子を教えてください。
橋本　皆ヒーローを応援していました。
目黒　あなたは・・・
橋本　私は、お父さんに、念のために避難しろって、エレベーターに押し込まれたんです。それが、父を見た最後になりました。父が残っていたフロアは、ヒーローのビームの直撃を受けて。父は帰ってきませんでした。
目黒　お父様は、避難しなかったんですね
橋本　父は警察官でした。ヒーローを応援する人と、逃げる人を、整理して誘導するのを手伝うって、

残ったんです。
目黒　立派なお父様だったんですね
橋本　でも！　ビルにいた人の誰も、ヒーローが私たちを巻き込むなんて、思ってなかった！　ヒーローが助けてくれると信じてたんです！　それなのに…殺されたんです！あいつに！
目黒　何か、被告に伝えたいことはありますか？
橋本　あなたを信じて、裏切られて死んだ父に謝ってほしい・・・いいえ、そんなのいらない。父と同じ苦しみを、味わってほしいです！
目黒　このように被告はビルの中に人がいることを確認していたのにも関わらず、その人たちの期待を裏切ってビームをうち、橋本さんに大きな精神的苦痛を与えました。この事実に間違いはないですね。反論ありますか？
鳴海　あー、資料によると、ヒーローのビームは中にいた人ごとビルを消してしまったので、その－正確には行方不明ということに・・・。
目黒　橋本さんの前で不謹慎な発言はやめてください！
岩元　苦しんでほしいなんて、過激な発言だと思います。
目黒　過激？　彼女は、大切な、大切なお父様を被告に殺害されたんです。被告に対してそのような感情をもつのは不自然ではありません。被告人と弁護人は、以上の起訴内容を認めますね？
鳴海　はあ・・・でも・・・ヒーローさん！　あなたも何か言ってください！
ヒーロ　イェイ！！
目黒　ヒーローは何て？？
岩元　人を守るためだ。わざとじゃない。ヒーローはそんなことしないものだ。
裁判長　被告、それは本当ですか？
ヒーロ　・・・。
目黒　黙秘ということでよろしいですか？
岩元　ちがう！　やってないって言ってるでしょ？
裁判長　どうなんですか？
ヒーロ　・・・。
裁判長　いいみたいですね。では、検察の証人は席に戻ってください。弁護側から意見はありますか
岩元　ええと、違うんです！
裁判１　通訳は通訳として発言してください。

岩元、鳴海に耳打ちする。

鳴海　はい、彼女はヒーローのことはなんでもわかるそうなので、僕の分身として話してもらいます。
目黒　なにそれ！
ヒーロ　イェイ！
裁判長　（ヒーローを怖がって）弁護側の要求を認めます。
みな　裁判長！
岩元　ありがとうございます。では、ここからは通訳かつ弁護人代理として話させていただきます。ですから、これはトロッコ問題なんです。

穐山　トロッコ問題？　なんですか、それ
目黒　読んだことないの？　マイケルサンデル教授のハーバード熱血授業、「これからの正義の話をしよう」
岩元　そう、その本なんですけど。かいつまんで説明しましょう。あなたはブレーキが壊れたトロッコ、まあ、電車だと思ってください。あなたは止まることができない電車の運転席にいます。そして前方の線路の上の工事現場に、何人もの作業員がいるのをみつけました。このまま、あなたがなにもしないと、電車は、大勢の人をはねて、死なせてしまいます。
穐山　え～～～。
鳴海　どうにかならないんですか？
岩元　あなたにできることはひとつだけ。工事現場の直前にある線路の切り替え機、これだけは操作することができるので、工事現場を避けて別の線路に電車を進めることができます。
穐山　あぁ、それならそっちにいく！
目黒　ただし！　その線路にも、関係ない人が一人立っています。
岩元　最初の線路にいる大勢の作業員を救うために、別の線路を選べば、関係ない人を一人、巻き込んでしまうことになります。あなたなら、どうしますか。
穐山　それは・・・
岩元　ヒーローが怪獣と戦うというのは、そういうことなんです。怪獣を倒して大勢の人を、人類を救うためには。犠牲が出てしまうのも、いたしかたがない。
橋本　いたしかたがないって、あなた、自分が言ってることがわかってるんですか？
岩元　わかってますよ。ヒーローはどちらかを選ばないと戦っていけないんです。
橋本　じゃああなたは、お父さんが死んだのも仕方がないから許せっていうんですか！
岩元　そうよ！　怪獣と戦って大勢の命を救うほうが大事に決まっているでしょう！
橋本　命の重さは同じなんです。だったら、数で判断するしかないじゃないですか？
岩元　そんな単純な話じゃないんです！
橋本　裁判官！　こういう人のことをいちいち気にしていたらヒーローは戦えませんよ！
岩元　あなたは私と同じ思いをしても同じことが言えるんですか？　考えたこともないくせに、仕方がないだなんてふざけないでよ！
橋本　それはそうですよ。でも、別にヒーローだって殺したくて殺した訳じゃないんですよ？
岩元　人類を守ろうとして、ビームを撃ったらそれがたまたま当たってしまって・・・
橋本　あなたは私の気持ちがわからないからそんなこと言えるんです！　父を失った悲しみ、孤独、やり場のない恨み・・・わかりますか？　わかりませんよね？？
岩元　じゃあ、あなたはヒーローが何もせず、怪獣にみんなが殺されれば良かったって言いたいんですか？
橋本　そんなこと言ってないじゃない！
岩元　じゃあ、どうすればいいってことなんですか？
橋本　あなたは私の気持ちを考えたこともないんでしょう？
岩元　無いくせに・・・無いくせに、この悲しみを分かったような顔してそんなこと言わないでよ！
岩元　私はあなたの苦しみはわかりません。でももし、あなたがもしヒーローだったら？　一人か何万人、どっちを選びますか？　大勢に決まってますよね？　ヒーローだって、その一人の犠牲に申し訳ない気持ちはあるはずです。
橋本　申し訳ないなんて本当に思っているんですか？　どうせ運がなかったとか不幸だとか言いたいんで

しょ？
岩元　それは思い込みです！
裁判１　なんかまずいですね
裁判２　シナリオからどんどん外れていきますよ
裁判長　あの通訳をなんとかしないとなあ
裁２人　あんたのせいでしょ！
裁判長　でもだよ？　もし、ヒーローを怒らせたらさぁ・・・
目黒　裁判長！弁護側の通訳は意図的に橋本さんの心を傷つけました。通訳に徹することができないのなら、退廷してもらうべきです！
裁判長　えー、検察の意見を認めます。
岩元　はあ？　あんたが私を弁護人代理として認めたんでしょ？　退廷はできないはずよ！
裁判長　そ、そのとおりです。却下します。却下却下ー！！
裁２人　裁判長！
橋本　ヒーロー。　あなたも何か言ってよ。　こんな人の口からじゃなくて。あなたの言葉を聞かせてよ！　ねえ、聞こえてるでしょ？
ヒーロ　・・・・・。
鳴海　ヒーローは、話せない。僕にも、彼の考えていることが本当にはわからない。でも、彼はここに来てくれた。裁判に出席してほしいという呼びかけに応えて、これまで怪獣が現れたときにしか出てこなかった彼が、来てくれたんです！
橋本　何が言いたいんですか？
鳴海　きっとキミの気持ちも言葉も、彼に伝わってる。だから、彼にも伝えたいことがあるはずです。
ヒーロ　・・・イェイ！！
鳴海　通訳さん。彼は、ヒーローはなんて言ったんですか！
岩元　・・・。
鳴海　通訳さん。
目黒　裁判長。検察としては、弁護側の通訳の翻訳は信憑性に欠けていると思います。
裁判の進行を著しく妨げ、正当な審理に悪影響を及ぼす懸念を表明します
岩元　どういうことですか！
鳴海　異議アリ。ヒーローとの意思疎通は公正な裁判に必須であります！
目黒　ですから、その意思疎通に問題があるのではないか、と言っているんです
鳴海　それはぼくもそう思いますけど
岩元　ちょっと！？
目黒　そもそもみなさんは、彼女がなぜ通訳として採用されたのか覚えていますか？　彼女の主張がなんとなくヒーローの行動とかみ合っていたからに、すぎません。その後の彼女の通訳は、彼女の願望、想像、妄想によるあてずっぽう、または、ただのでっちあげと思われます。
岩元　違う！　私がヒーローのことを一番わかってます！

裁判長　静粛に！　ええ、検察側の申告を認めます。裁判の進行を著しく妨げたことにより、デメリットの方が大きいと判断して、岩元さんは通訳から解任します。鳴海弁護士、よろしいですね。

鳴海　はい。

裁判長　被告も、いいですか。

ヒーロ　・・・。

鳴海　いい、ようです。

岩元　私は弁護士代理としてここに残らせてもらいますから。

目黒　・・・ありがとうございます。では、引き続き証拠の提示に移ります。

虫鹿　こほん。（目黒を呼びつけ、耳打ちする）

目黒　・・・え？　でもは予定には・・・

虫鹿　（目黒の言葉を手で制する）

目黒　ええと、検察からは引き続き、新たな証人、および、通訳による証言を行います。

鳴海　通訳って、たった今却下したところじゃないですか！

目黒　ですので、検察から、別の通訳の採用を提案します

鳴海　別の通訳って、そんな都合よくいるわけが・・・

後藤　いるんです。どうぞ！

気持ち悪い姿をした怪獣が三匹現れる。

全　うわあぁぁぁぁぁ！！！！！

カメラ　怪獣？

裁判長　なんで怪獣がここにくるんですか！

傍聴４　どういうこと？

リポー　こんなの聞いてない！

カメラ　どうか、私を食べないで～！

ディレ　ばかやろう、怪獣がこんな小さいわけないだろ？

カメラ　でも！

ディレ　ヤラセだよ、ヤラセ。俺が何年この業界にいると思ってんだよ。

ディレ、怪獣に触るが、チャックはない。

ディレ　・・・本物だー！！

傍聴６　きゃー！

岩元　誰か助けて！

傍聴２　ヒーロー！

傍聴３　そうだ、ヒーロー！

傍聴１　助けて！

ヒーローが動き出し、ビームを撃とうとする。

リポー　（ディレを盾にしながら）ここで戦いが始まってしまうんでしょうかー！
ディレ　待って待って！　俺を盾にしないでってー！
傍聴４　ビームはやめて～！
翔也　ヒーロー、止まってください！
後藤　（裁判官の席に立ち、木槌をたたく）皆さん、落ち着いて。ヒーローも応戦せずに速やかにもとの席に戻るように。

とまどう人々

虫鹿　ゴホン。皆さん！　私たちはこれまで、大きな勘違いをしてきました。
後藤　どこからともなく現れ、迫ってくる巨大な謎の生物。私たちは彼らを怪獣と呼び、勝手に敵だと思い込んでいた。そして反対に、どこからともなく現れ、怪獣と戦闘を繰り返し、彼らを退けてきた存在、ヒーロー。彼を味方だと思っていた。
虫鹿　逆だったのですよ。被告は私たちに興味が無い。彼は私たちを守っていたのではなく。ただ単純に怪獣と戦っているだけの生き物なのです！
岩元　そんなことがどうしてわかるんですか！
西川　彼らが直接、教えてくれたんです。
鳴海　教えてくれたって！　怪獣の言葉がわかる通訳がいるんですか？
後藤　違いますよ。彼らは、怪獣は、自分で話すことができるのです！　さあ、どうぞー！

怪獣Ａ　はーい。ニンゲンのみなさーん！こんーにちーは！
怪獣Ｂ　元気してますかー？
ディレ　近寄るな～～
傍聴５　どっか行って！
裁判２　出てけ！
後藤　（木槌をたたく）怪獣さんたちは通訳として必須な存在です。よって彼らを通訳として採用してもらいます。いいですね？　裁判長。
裁判長　ＯＫです
全　ええええ！
怪獣Ａ　ありがとう～裁判長～
裁判長　オェッ、ゲホッ
怪獣Ｃ　みなさん聞いてください！！
怪獣Ｂ　私たちはジュラポメット星に住んでいました。
怪獣Ａ　でもある日、そこにヒーローがやってきたんです
怪獣Ｂ　そしてヒーローは訳もなく私たちを襲ってきたんです
岩元　何言ってんの？　そんなわけないじゃん
怪獣Ａ　あんなヒーローの何がいいって言うんですか

傍聴５　うるさい
ディレ　お前らキモいだけじゃなくて臭いんだよ
怪獣全　そんなぁ。
怪獣Ａ　政府さん。どうしましょう
後藤　あー、そうですね。しょうがないですね。ちょっと早いですけど、そろそろ変身しちゃいますか？
目黒　変身できるんですか
怪獣全　できます！
怪獣Ａ　よーし！
怪獣全　変身！（と言いながら怪獣の衣装を脱ぎ始める）
全　ええええ！

怪ＡＢ　（怪獣Ａ・怪獣Ｂ着ぐるみを脱いで）フォウ！
男達　かわいい
女達　いやいやいやいや
怪獣Ｃ　脱げませ～ん！
女達　かわいい！
男達　は？
怪獣Ｂ　もう、大丈夫？
怪獣Ａ　はやくはやく
２人　（怪獣Ｃを手伝いながら）もうちょっと！　がんばれ！　がんばれ！
怪獣Ｃ　死ぬかと思った。
ディレ　いやいやいやいや・・・ぶっちゃけ、着ぐるみでしょ？
怪獣全　変身ですよう！
怪獣Ｃ　蛇だって脱皮するでしょ？　それと同じ。
ディレ　じゃあ、それ、脱皮じゃん
怪獣Ｃ　え～。
怪獣Ａ　あー。もうそれ片付けといて
怪獣Ｂ　かわいくない、くさいし
怪獣Ｃ　はーい。
傍聴３　手伝おうか？
怪獣全　ありがとうございます
怪獣Ａ　わ～。お兄さんいいにおい！
怪獣Ｂ　本当だ～！　素敵！（傍聴３の手をとる）
傍聴３　え？　あ？　そうかなぁ？
裁判長　いいな～

傍聴３と怪獣Ｃ、着ぐるみを運ぶ。傍聴３はそのまま帰ってこない。

裁判１　裁判長

怪獣Ｂ　私たち、皆さんとずうっとお話したいなーって思ってたんですよー？
怪獣Ａ　まあ、あそこにいる人に邪魔されてたんですけど、ねー！
怪獣Ｂ　べーっだ！
鳴海　あ、あの、これはいったい
怪獣Ｂ　あれー？　何かおかしかったですかー？
怪獣Ａ　フレンドリーなアピールを研究してきたんですけどー、変ですかー？
後藤　全然変じゃないですよ！　じゃ、怪獣さんたちから、テレビに向けて、どうぞ！
怪獣Ａ　私たちは、ニンゲンの皆さんとお友達になるために、地球にやってきましたー！
怪獣Ｂ　なのにー、ヒーローが邪魔するんですよねー
怪獣Ａ　ひどいと思いませんかー？
怪獣全　ねーっ！
怪獣Ｂ　だからー、ヒーローにみつからないようにこっそりー、小さくなってー、
怪獣Ａ　ニンゲンの偉い人にお願いして、私たちがお話するチャンスをつくってもらったんですよねー！
怪獣Ｂ　ありがとうございまーす！
後藤　いやいやいや、僕なんか全然何にもしてないですよ。
怪獣Ｂ　私たち、宇宙のどこにいってもヒーローにいじめられるんですよう
怪獣Ｃ　どこに逃げても隠れても、おいかけてくるんですう
怪獣Ａ　私たちはー、静かにー、平和にー、皆さんと仲良く暮らしたいだけなんですよー？
怪獣Ｃ　皆さんとお話しようとしても、いつも邪魔されて。
怪獣Ｂ　だからニンゲンの皆さんに助けてほしいんです！
怪獣全　お願いしまーす！
ヒーロ　イェイッ！（反応して襲い掛かろうとしている）
鳴海　落ち着いて。落ち着いて。ね。

目黒　では、被告に対する尋問を始めます。被告は証言台に立ってください。怪獣さんは通訳をお願いしてもいいですか？
怪獣Ａ　オッケー！
目黒　では、被告、あなたはなぜ怪獣と戦うんですか？
ヒーロ　イェイ
怪獣Ａ　「怪獣とは本能で戦っているだけだ。別に人類のみなさんのため、というわけではない。」って言ってまーす
鳴海　ヒーローは本当にそう言ったんですか？
怪獣Ａ　本当ですーー
怪獣Ｂ　私たち嘘なんてついたことないもん！　ねぇ？
怪獣Ｃ　ねぇーー
目黒　では、自分のために戦っている、ということですか？
ヒーロ　イェイ
怪獣Ａ　「そうです。自分が怪獣と戦っていたら、人類が自分たちを守ってくれてるって勝手に勘違いしただけです。」って言ってます。

怪獣C　さっきも見ましたか？
怪獣B　私たちが入廷したら、すぐに襲いかかってこようとして・・・
怪獣C　本当に本能で動いているだけなんですよ、ヒーローって。
怪獣A　そしてヒーローがここに来たのは、裁判とか全然関係なかったんですよ
怪獣B　私たちを探しに来たんです
穐山　そうなんですか？
鳴海　怪獣さん。ああ怪獣さんで呼び方はいいんでしょうか？
怪獣A　いいですよー。まあ、もっとかわいい名前募集中なんですけど、慣れるとかわいいと思いませんか。カイジュー♪
鳴海　かわいいです。・・・いや、そんなことはどうでもいい！
怪獣A　こんな話もできない暴れん坊より、かわいそうな私たちと
怪獣全　仲良くしてくれませんかァ？
裁判長　する！　絶対する！
裁判官　裁判長！
後藤　ええ、みなさん。ご覧いただけましたでしょうか。怪獣は人類に友好の手を差し伸べてくれています。私たちはその手をとるべきだ。怪獣が人類の敵ではないとわかった今、怪獣をただの敵にすぎないと思っているヒーロー、彼と人類の関係を見直すべきなのですよ。
岩元　待ってください！　一方的な証言です！　信用できません！
鳴海　怪獣を通訳とする一方的な証言では、公平な裁判にはなりません！
岩元　怪獣の言ってることが本当だという保証がありません！
目黒　それは、先ほどのあなたと同じでしょ？

西川　あー、もう裁判なんて、どうでもいいんですよね。
岩元　え？
虫鹿　こら、西川君。
後藤　（カメラマンに）ここからはオフレコなんで、カメラ止めちゃってくださいね。
橋本　どういうことですか？
後藤　この裁判は、怪獣さんたちに話してもらうためのショーだったんです。予定はかなり狂ってしまいましたが、しょうがないですね。テレビ中継されたこの映像が全国に広まれば、人類にとって誰が敵なのか、はっきりするでしょう。
鳴海　そんな。
目黒　じゃ、彼女は。橋本さんはダシにされたのですか。被告が味方じゃあないってことを伝えるために。
虫鹿　まあ。でも、結果的には、ヒーローと話したいという彼女の願いがかなった訳だから。
西川　よかったですね。
橋本　・・・・・なんですかそれ？
後藤　それにココだけの話ですが、怪獣さん達には医療分野の研究において力を貸していただけることになっています。なにしろ今まではヒーローが倒した怪獣みんな持ってっちゃってましたから。
虫鹿　未知なる細胞を手に入れれば、日本が世界の医療の頂点に立つのも夢じゃないんだよ。
西川　まさにウィンウィンの関係ですね。

鳴海　そんな・・・。
後藤　さ、手続きの上でいけば、検察官が起訴を取り下げれば、裁判は終了！　ということになりますが。
目黒　取り下げません。起訴を取り下げるなんて、私の辞書にはありませんから。
西川　めんどくさいなあ
後藤　検察官のプライドというやつですか？
虫鹿　ま、しかたがない。いいだろう。
後藤　裁判長！　裁判長！　ほら、こう言ってますよ！
裁判長　ちょっと待ってください、審議します。

四場

別室。鳴海と岩元とヒーローが休憩している。

鳴海　はーぁ。・・・どうしたら話してくれるんですか？　怪獣たちが言ってたみたいに、怪獣を倒す他は何も考えてないんですか？
ヒーロー　イェイ。

稲山が来る

稲山　あ。
鳴海　あ。
稲山　あなたたちも休憩ですか。
岩元　いけませんか
稲山　そう喧嘩腰にならなくてもいいじゃないですか。裁判はぐだぐだになっちゃって、敵も味方もないんですから。
岩元　馴れ合いはしませんから。
鳴海　まあまあ。お茶どうですか？
稲山　あ、ごめんなさい。さっきコーヒー飲んだんで。
鳴海　あ、そうですか。

お腹が鳴る音。

鳴海　今、誰かのお腹が鳴りましたよね？
岩元　私じゃないですよ。
稲山　私も違います。
鳴海　いや、僕でもないですよ。・・・？

三人、顔を見合わせる。（ヒーローってお腹鳴るんだ！）

鳴海　あ、ヒーローもどうですか？
　　お？　・・・受け取ってくれましたね。
岩元　どうやって飲むんだろう
鳴海　まあ？　・・・どっかから吸収するとか？

ヒーロ　（お茶を飲んで）ありがとう。このお茶おいしいですね
鳴海　でしょ？僕もこのお茶好きなんです・・・って、ええ！
ヒーロ　・・あっ。（知らんぷり）
３人　待った！　待った待った待った！
ヒーロ　イェイ
３人　ごまかすな！
ヒーロ　・・・えーと、感謝の言葉は、ありがとう、ですよね、間違ってましたか
稲山　喋れるの？
岩元　なんで？　なんで？
ヒーロ　いえ、これが初めて、です。誰かと話すというのは。不思議な感じですね
鳴海　話せたんですね。
ヒーロ　・・・。はい。
鳴海　話すことができたのに、いままでどうして黙ってたんですか
ヒーロ　それは、その、恥ずかしいから。
三人　はあ？
ヒーロ　あれ、違う。ええと、なんて言うんだったっかな。え～っと
岩元　口下手だから？！
ヒーロ　そう、それです！　うまく話す自信がなくて・・・
岩元　あの！　質問いいですか？血液型は何ですか？
ヒーロ　え～～っと
岩元　A型ですか！　私と一緒だ！　え、じゃあ次！　私のこと、どう思ってますか？
ヒーロ　人類のメス。
岩元　いやん。もうクール！
稲山　はい！　さっき、お腹鳴りましたよね。お腹すいてるんですか？
ヒーロ　はい・・・。
稲山　あー、確かに。ヒーローが何かを食べているのを見た、なんて話、聞いたことないですね。
岩元　この星に来てから、何も食べてないんですか？
ヒーロ　そんなことはないんですけど、裁判が終わったら、おいしいものをたくさん食べようと思っています。
稲山　それなら一緒に食べに行きましょうよ。いい店知ってますから。
岩元　次、次！　その服はどこに売ってますか？
ヒーロ　これは服じゃなくて体の模様です。
岩元　え！　え、じゃあ今、裸なんですか！？　え？　それで歩き回ってるんですか？　え、触っちゃった！
　　どうしよう！
鳴海　やめなさい！　・・・はあ、なるほど。こうなるだろうと思って、ずっと黙っていたと。

ヒーロ　そうなんです。困りますから。
岩元　あの、あと1つだけ、質問いいですか？
ヒーロ　はい
岩元　あなたの名前は？　私たちはあなたのことをヒーローと呼んでいるけど。あなたの自分の名前はなんていうんですか？
ヒーロ　名前は・・ありません。だから、好きに呼んでください。
岩元　ふうん、じゃ、ヒーローでいっか。私、イワモト　アイです。改めてよろしく。
穐山　私は検察官のアキヤマです。実は俺もファンなんですよ！
鳴海　ナルミです。怪獣が言ってたのと、全然雰囲気が違いますね。
穐山　確かに怪獣の言い方では、もっとこう、いじめっことか、乱暴な雰囲気って感じがしますよね。
岩元　やっぱり怪獣の言うことは信用できないんですよ！　ヒーローは正義の味方なんです。
ヒーロ　いいえ。怪獣は本当のことを言ってますよ
3人　え？
ヒーロ　怪獣にとっては、私は、血も涙も無い大量殺人犯ですから。
岩元　まあ、そりゃ～、そうでしょうけど。
ヒーロ　それに、話すなんて無駄なことしたの、初めてです
鳴海　無駄って！
ヒーロ　あの、私が喋れることは内緒にしてくれませんか？
鳴海　まさか、そんなわけにいきませんよ！　裁判で証言してもらわないと！
ヒーロ　やっぱり、話さないとだめですか
穐山　そりゃぁ、しゃべった方が。ねぇ？
ヒーロ　私は、こういう生き物なんです。当たり前だから怪獣を倒してるだけなんです。大勢の人を助けたことだって・・・。
穐山　まあ、あなたにとってはそうかもしれませんけど
鳴海　それでも、僕はあなたを弁護します。どうゆう判決になるかは、わかんないですけど・・・。
ヒーロ　安心してください。あなたたちの裁判の判決には従います。人類にとって、私は必要ないのなら、この星を去るほうがいいのでしょう。
穐山　・・・いやいやいや
岩元　もう、裁判なんて無視です、無視！　判決なんて気にしなきゃいいんですよ。
2人　は？
岩元　あんなの、あいつらが勝手に言ってるだけなんです。あなたは、今までどおり強くてかっこいいヒーローでいいんです。ヒーローは自分の信念を貫かなきゃ！
ヒーロ　信念なんてありませんから。
岩元　もう！　本当に謙虚なんだから～！
鳴海　ちょっと、待ってください。さっき、怪獣を倒して、大勢を助けたといいましたね。
ヒーロ　はい。
鳴海　怪獣はさっき、ニンゲンと仲良くしたいと言っていました。あれは嘘なんですか？
怪獣が嘘をついて騙しているんですか？
ヒーロ　騙してるつもりじゃなくて・・・たぶん、仲良く、の、意味が違うんだと思います。

五場

怪獣達が、人のいない法廷で遊んでいる。

怪獣Ａ　いやー早く終わらないかなー、裁判。
怪獣Ｂ　終わったら楽しみしかない！

マスコミ関係者、登場。

リポー　あの～、インタビュー、いいですかー？
怪獣Ａ　いいよー

リポー　怪獣さん、この裁判、どうお考えでしょうか
怪獣Ａ　それはやっぱり・・・怪獣が勝ちます！
怪獣全　イェーーイ
リポー　おー、自信たっぷりですね！
怪獣Ａ　まぁ、これからの日本は、怪獣が背負っていくっていうか？
リポー　さすがです。ありがとうございました
ディレ　ねえ、君たちさあ、番組に出てみない？
　　あ、君たちかわいいし、アイドルとしてデビューしちゃう？
怪獣全　しちゃう！　しちゃう！
ディレ　じゃあ、うちのテレビ局限定で！
怪獣全　どうしよっかな～

裁判官たち、検察・弁護側も登場。マスコミ、傍聴席に戻る。

裁判長　（木槌の音）えー、では、裁判を再開します。検察官。
目黒　はい！　被告人ヒーロー、改めて・・・質問に答えてください。
ヒーロ　・・・。
怪獣Ｂ　あ、私たち通訳だった！
怪獣Ｃ　そうだった！　また、通訳しますね。
鳴海　必要ありません。
全　え？
鳴海　今からは、被告が自分で話します。
全　ええー？
目黒　本当ですか？
鳴海　あなたから、自分の言葉で話をしてくれませんか？
穐山　ヒーローさん。

橋本　本当に、話せるんですか？　だったら、ちゃんと話して欲しい。本当はどう思っているのか。
目黒　あなたには、説明する責任があります。それに私も、あなたが何を考えているのか、知りたい。
鳴海　さあ。
ヒーロー　・・・。
穐山　・・・どうして黙ってるんですか。ヒーロー、あなたは本当にそれでいいんですか？　いつも颯爽と現れて、怪獣を倒して何も語らず去っていく。そんなあなたに、確かに僕はあこがれていました！だけど、いま黙っていたらだめでしょう。これも1つの闘いなんです。あなたは勝って、僕やあなたにあこがれるたくさんの人々に報いるべきだ。あなたには、あなたの声を届ける義務があるんです！
ヒーロー　・・・。

ヒーロー、うなずいて変身する（マスクを外す）。ヒーローは女性であった。

ヒーロー　わかりました。人類の皆さん、改めて、はじめまして。
全　えええ！
カメラ　しゃべった！？
裁判長　女だったの！？
ヒーロー　ええ。
裁判長　（ニヤニヤして）そーゆーのはもっと早く言ってくれないと！
裁判1　おっさん！
怪獣A　ちょっとあんた！　何で話してんのー？
穐山　怪獣が人類の言葉を話せたんですから、ヒーローにも話せて不思議ではありません。
裁判長！これで通訳は不要となりました。
目黒　ちょっと！
裁判長　あー、そうですね。じゃあ怪獣の皆さんはこれで・・・
怪獣C　やだー！
怪獣B　私たちはここにいるからねー！
怪獣A　許可してください。
裁判長　（デレデレして）許可しちゃう！
怪獣全　よっしゃ～！
目黒　被告に対する質問をはじめます。被告、あなたは奇跡の人、人類の救世主と呼ばれてきました。怪獣に襲われている人類を助けに来た、奇跡の人だと。そう言われていることについて、どう思いますか。
ヒーロー　・・・誤解だと思います。私は怪獣と戦うためだけに地球に来ました。
橋本　私たちは関係ない、ということですか
ヒーロー　そうです。私は怪獣を追ってこの星に来ただけです
目黒　では、あなたと怪獣の戦いに、橋本さんの家族を・・・人類を巻き込んだことについて、反省の気持ちがありますか。
ヒーロー　・・・ありません。
目黒　自分のしたことは正しかった、とおっしゃるんですね。

ヒーロ　はい。私は怪獣と戦うことが何よりも重要で、他のことに興味を持つことはありません
その戦いに巻き込まれる人が少しくらいいても、しかたがないのかなと。
橋本　ヒーロー、あなたは、私のお父さんを殺したときのことを覚えていますか？
あのとき、そこに人が、お父さんがいるのを知っていて、怪獣と戦ってたんですか？
ヒーロ　・・・はい。
橋本　お父さんを巻き込むことを、わかってて、怪獣を倒す方が大事だから、一緒に殺したんですか？
ヒーロ　そうです。それがいけないことだというあなたの気持ちが、わからないんです。
戦うことがいけないというなら、それはたぶん、あなたが生き物として壊れているせいなのだと、
思います。
橋本　壊れているのはあなたの方よ！　家族が特別なんだって、他のなによりも大切な人がいるんだって、
そんなこともわからないあなたは・・・あなたはヒーローなんかじゃない！
ヒーロ　はい。ですから、最初から、そう言っています。誤解だ、って。
岩元　ヒーロー・・・。
目黒　では、被告には、橋本さんの気持ちを理解できないんですね？　怪獣と戦う自分が正しいと、
自分に疑いを持ったことは、ないんですね。
ヒーロ　私は怪獣と戦うことが正しいか、間違ってるかなんて、考えたこともありませんでした。
橋本　どうしてわかってくれないの？　たったこれだけのことが、どうしてわからないの？
目黒　橋本さん。
橋本　私、頑張ってきたのに、私すっごい頑張ってるのに、私は何にも悪くないのに。
どうしていつも私ばっかり不幸になって。私ばっかり・・・。
岩元　ヒーロー！　ほら、ヒーローは口下手だから、うまく伝えられないだけで・・・
ヒーロ　違います。人間に興味がないだけです。
岩元　ヒーロー！
ヒーロ　あなたも、理想を私に押しつけないでください。
岩元　・・・。
後藤　証言はもう、十分でしょう！
鳴海　いいえ！　まだです！
虫鹿　被告は人類の味方じゃない、ってことは、もう明らかでしょう。　れ以上裁判を続けても意味はない。
目黒　いいえ！　それを言うなら、・・・この裁判にははじめから意味なんてないんです！　人間がどんな
判決を出したって、ヒーローには関係ない！　有罪になったって、従う理由なんてない。でも、それ
でも私がこの裁判を続けるのは・・・ただ、被告に橋本さんの気持ちをわかってほしい、罪を認めて
ほしいだけなんです！
橋本　有罪でも、無罪でも、どっちだっていいんです。私には関係ない。私はただ、一言、一言ごめんなさ
いって言ってくれたら、それでよかったのに・・・
ヒーロ　人間にとって、気持ちというのはそんなに、大切なものなんですね。それがわからない私は、
人間を理解することはできない。
（橋本に）ごめんなさい。私には、あなたの気持ちをわかってあげられない。
私が地球に来たのが、間違いだったんですね。私は地球から去ります。
橋本　・・・それは、私が聞きたかった、ごめんなさいじゃ、ないよ・・・

ヒーロ　・・・私にはわからないんです。
穐山　ヒーロー、そうじゃない。そうじゃないんだ・・・。
後藤　わかりあえないことが、わかったところで、弁論を終了しましょうか。ま、なかなかに感動的かつ劇的なすれ違いでしたが。そもそもの前提が間違ってるんですよ。怪獣さんたちは、人類と仲良くしたいと言っている！　ヒーローがわざわざ戦う理由が、どこにもなかった訳ですね。
鳴海　異議アリ！
虫鹿　もういいだろう。検察側から求刑を。
鳴海　異・議・ア・リ！　・・・あの、ひとついいですか。前提が間違ってるって、さっき言われましたけど。それ、たぶん、あなた方の方です。
虫鹿　どういうことだ？
鳴海　通訳が必要なのは、怪獣たちの方なんです。たぶん。
後藤　あの、怪獣さん、あなたたちは、人類と仲良くしたい。そうですね？
怪獣Ａ　そうですよー
怪獣Ｂ　人間大好きでーす
怪獣Ｃ　食べちゃいたいくらいー
怪獣Ｂ　ていうか、さっき食べたでしょー？
怪獣Ｃ　ばれた？　あ、コレ、おすそわけ（カバンから人間の手首をだす）
怪獣Ｂ　ありがとう！　あ（手首が落ちる）
全　あ。
怪獣Ｂ　てへ
全　うわーーーーーーー！　（混乱に合わせて怪獣Ｂ・Ｃは去る）

岩元　ホラ、やっぱり私の言ったコトが正しいじゃない！　怪獣は敵なんですよ！
橋本　そんなこと言ってる場合じゃないでしょ！
岩元　ふーんだ！　私が正しいって認めたくないんでしょ？
橋本　そんなこと言ってない。
岩元　こんな怪獣が人類の味方なんてありえない！
橋本　怪獣が正義の味方なんて私、言ってないでしょ！

言い争いに夢中で、怪獣Ａが近付くのに気づかない２人。
怪獣Ａが、意外に強い力で橋本と岩元をつかまえる。

怪獣Ａ　あーあ、せっかくうまくいくと思ったのにぃ・・・
岩元　え？　え、え？いやだ！　たすけてー！
リポー　なんということでしょう！　怪獣に２人捕まりました！
ディレ　おまえらも危ないって！
傍聴５　何してるの！
穐山　戦えよ、ヒーロー！
怪獣Ａ　今なら勝てるかも！　よーし、行けーッ！

怪獣B・怪獣C、着ぐるみで戻る。

怪BC　ウオーーーーーー　ガオーーーーーー
全　キャーー
傍聴5　あっち行って！
傍聴6　こっちに来ないで！
目黒　みなさん、避難を！
裁判2　こっちが非常口です！
カメラ　早くビームを撃ってよ！
傍聴2　いつもみたいに！
傍聴1　ヒーロー！
岩元　ちょっと待ってよ。
リポー　今ビームを撃ったらあの人たちまで死んじゃう！
ディレ　でもビームを撃たなきゃ俺たちも危ないだろ！
橋本　早く撃って怪獣を殺して！
ディレ　君、あおらないで！
岩元　やめて！　お願い撃たないで！
橋本　何言ってるの！？
岩元　私だって死にたくないの！　私を殺さないで！
橋本　犠牲が必要ってあなたが言ったんでしょ！
岩元　やっぱりいやだもん、こわいもん！
橋本　もういい！　ヒーロー！
岩元　撃たないで！

傍聴席の避難が完了する。
なかなか動き出さないヒーロー、周囲もヒーローの異変に気付き始める。

穐山　どうしたんだよ？　ヒーロー
傍聴2　いつもみたいに戦ってよ
橋本　何やってるの！早く！

目黒　ヒーローだって・・・悩んでるんです！　人間を巻き込むことを、裁判のことを！
橋本　私のことを？
岩元　私が間違ってました！　私を巻き込まないでください！
橋本　あなたは、黙ってて！　ヒーロー！　撃って！
全員　きゃーーー！

ヒーローのビームの充填の光が舞台を照らしあげて、ストップモーションに

橋本　撃ちなさい。あなたにとって怪獣を倒すことだけが大事なんだったら、みんな巻き込んで、ビームを撃ちなさいよ！　命の重さもわからないヒーローに守られる世界なら、こんな世界、私はいらない！

全員　きゃーーー！

ヒーロ　・・・！（構えに力をこめて）

ヒーロー、撃つ（照明・音響効果。）怪獣Ｂ・Ｃが倒れる。
倒れた仲間を置いて、怪獣Ａは一人逃げ去る。

リポー　ヒーロー、やりました！　人質も全員無事です！

全　やったーーー！

傍聴４　かっこいい！

傍聴５　ヒーローは正義の味方よ！

岩元　ヒーローありがとう！

目黒　おめでとうございます！　あなたの気持ちが通じたんですよ

橋本　本当に？

岩元　私たちのことを守ってくれたんですよ！　私の言った通りです！

虫鹿　裁判長

裁判長　いいんですか

虫鹿　当然だ。ヒーローの活動を支援しよう。

西川　あれ～？

裁判長　では、判決を下します。被告は人間の気持ちを理解できると先ほどの行動で我々に示してくれました。よって、これからも人類と共存できると判断して、被告、いえヒーローを、無罪とします！

穐山　やった！　無罪だ！

岩元　やっぱりヒーローは正義の味方なんですよ

橋本　守ってくれたんですね。

穐山　やっぱりヒーローは僕たちの味方だったんだ

裁判長　やっと終わった～！

裁判官　裁判長！

橋本の方にヒーローが歩み寄る。

橋本　ヒーロー、ありがとう。私の気持ち、わかってくれて。あの、ヒーロー・・・

ヒーローはおもむろに歩き出し、橋本の前を通り過ぎる。目黒、橋本に話しかける。

目黒　橋本さん！

橋本　はい！
目黒　よかったわね！
橋本　はい。
目黒　あなたがヒーローの心を変えたの。あなたがヒーローを変えたのよ！
橋本　そんなことないですよ。ありがとうございました。
後藤　（やってきて）目黒検事、お疲れさまでした。
虫鹿　君の経歴に黒星つけてしまったね。
後藤　いやぁ、本当に申し訳ないです。この埋め合わせはまたいずれ。
目黒　いいんです。私にとっては最高の黒星ですから。

一同、笑い合う。橋本、輪から抜けてヒーローのもとへ。
狂騒から離れ、ヒーローは怪獣の死骸の前にかがみこんでいる。

橋本　ヒーロー？

橋本がその様子に気づいて、ヒーローに歩み寄る。

橋本　きゃー！

皆が見守る中、ヒーローが振り返ると、彼女の口からは怪獣の腸が。
ヒーローは怪獣を貪り食っていたのであった。
皆が凍り付く。
ヒーローは怪獣を再び貪り始める。

幕。